



フィグ・ヤーパン通信

第20号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.20

発行日 2004年10月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新刊書『プレアデス／プレヤール人との接触記録(1)』のご案内

この度、フィグ・ヤーパンでは、ビリーの接触記録を集大成した「プレアデス／プレヤール人との接触記録(1)」を、来る11月14日に出版する運びとなりました。

本書は、諸般の事情により、一般の出版社からではなく、自費出版形式で出版いたします。このため、フィグ・ヤーパン内に、「水瓶座時代出版」を新設しました。「水瓶座時代出版」は、すでに日本図書コード管理センターにおいて、出版社として正式に登録されています。

自費出版の都合上、本書はフィグ・ヤーパンを通じてのみお求めいただけます。ご注文は、本の価格2000円(税込み)と送料(1冊290円、2冊340円)を合わせた金額を、巻末に掲載した郵便口座宛てにお振込み頂くことで承っております。この機会に是非お求めくださいますよう、ご案内申し上げます。



プレアデス／プレヤール人との接触記録(1)
(水瓶座時代出版刊)

装丁：A5判 ソフトカバー
頁数：272ページ
重量：375グラム
定価：2000円(税込み)
送料：290円

本書は、近年FIGUスイスによって全面的に改訂された原本を邦訳したもので、プレアデス／プレヤール人との会話に加えて、多くの写真や資料、さらに新たに公開された接触記録が掲載されていることが特徴となっています。

セミヤーゼの協力によって撮影された鮮明なUFO写真、幼い頃のビリーや家族との写真、書簡類は、接触記録の理解を助ける興味深い資料となっています。さらに、人間の7つの主要な発展段階の説明、プレアデス／プレヤール人の故郷惑星及び地球における歴史的な出来事、ムーとアトランティスの滅亡の経緯等、興味深い数多くのテーマが話し合われ、その内容が収録されています。

ビリーの最初の接触は5歳の時で、それはプレアデス／プレヤール人のスファートと行なわれました。ここでは本書の導入部に掲載された、接触記録の一部を紹介します。

スファートの説明

1945年2月3日 土曜日 12時10分

....

71. 人間の最大の問題は、創造とその法則および掟に関して無知なことです。

72. この問題は一つの社会階層や一つの信仰の問題ではなく、すべての個々の人間の問題、全人類の問題です。

73. この無知のゆえに人間は彼らの幻想、願望およ

び欲望、彼らの欲求と快樂、そしてあらゆる娯楽や物質的なくだらないものに従属しており、個々の人間も人類全体もこうしたすべてから自らを解放できないのです。

74. そしてこの無知により生命に対する不確かさが蔓延し、その結果として憎しみ、戦争、殺人、所有欲、嫉妬および復讐欲、そしてありとあらゆる種類の犯罪、さらにまた途方もなく破壊的で破滅的な兵器が生まれるのです。たとえば原子爆弾がまもなくアメリカ人によって致命的かつ破滅的な道具として乱用されます。すなわち、彼らは今年8月6日に核兵器の使用によって日本の都市、広島を破壊して数十万人の死者を出し、同じ犯罪を8月9日にやはり日本の都市、長崎で繰り返し、またもや約十万人の命を奪うでしょう。

75. 君がもたらす教え、すなわち霊の教えは、人間を真理と愛、平和と自由、そして調和の道に導くことを意図するものです。

76. それは人間と世界を変えることを意図するものです。

77. そしてこの教えをもたらすことを、君は自分自身に対して、生命に対して、そして創造と人間に対して義務づけているのです。

78. そのために君は自分の全責任を知覚して、懸命に休むことなく仕事をするでしょう。

79. 君の知識と知恵、君の意識と肉体の力、そして君の労働により、君は愛、平和と自由、円満と喜び、そして調和において古くて新しい方向を、人間の全思考と感情、活動と行動に進歩をもたらし得る方向を指し示すでしょう。

80. 君の真の愛は、君の助けを必要とし、また君の助けを受け入れようとしている人間たちを、君のすべての知識と知恵の価値を持って助けるものとなるでしょう。

81. 彼らが君に、そして霊の教えに対して心を開くときは、常に君も彼らに心を開きなさい。なぜなら、君の目標は常に教え、助けることだからです。

82. エドゥアルト、君の使命は、地球の人間を虚偽と無知の眠りから目覚めさせることです。

……

新刊 預言者エレミヤとエリヤの予告



ドイツ語原文対訳
A5判
52ページ

本書には、1989年の7月に行われた第229回会見において、クウェツツアルがビリーに明かしたエレミヤとエリヤの予告が掲載されています。クウェツツアルは古代エレミヤの預言を現代の言葉に置き換えて、理解し易い言葉で明確に解説しています。

本書はA5判ドイツ語原文対訳でご覧いただける小冊子として発行しています。なお本書は11月中旬以降の配本となります。

ビリー：エレミヤの予告はどのようなものかね。それは預言ではないのだが。

クウェツツアル：私はそれを現代のドイツ語に直した。その結果、予告は次のようなものである。

新時代の預言者が教えを広める新しい時代において、大きな転換の時代が始まった。それは預言者イマヌエルの誕生後2千年紀から3千年紀まで続くであろう。そして2千年紀が終わり、3千年紀が始まったとき、人間は金をはじめ、ありとあらゆる有価物に目が眩み、あらゆる土地の至るところでターレル貨を数えるようになるだろう。たとえ空を見上げて、彼ら人間は星の中に金や宝石やターレル貨を見るだろう。彼らは礼拝所を設け、実体のない神や、人間自身によって聖人に奉られた人間を敬うだろう。実体のない偶像の礼拝所は、商人や両替屋の取引場所となるだろう。……

Q&A 質問と回答

□読者の質問

平和瞑想とは何でしょうか。

□ピリーの回答

1984年の春に、FIGUスイスでは、いわゆる平和瞑想を始めました。平和瞑想は、プレヤール星からやって来た地球外の友人によって組織され、地球人の未来をより善い方向へと転換させることを目的に行なわれています。平和瞑想は、強力な論理的パルスを送出して、地球をドームのように覆って人間と自然全体に影響を及ぼしている負の「力場」に対抗する対極を構築することによって機能します。この負の力場は、人間の墮落した過激な宗教的・宗派的思考により数百年間かけて築かれました。プレヤール連盟の35億以上もの人々の助けも借りて、セミヤーゼ・シルバー・スター・センターの上空高く浮遊しているテレメーター円盤やその他の装置を用いて、強力な「対抗パルス」を地上に送出するのです。

地球人は何よりも自分自身とこの惑星の善悪の状態に対して、従ってまたその治療に対しても責任があります。このため、理性に恵まれ、責任感のあるすべての人間に、FIGUの平和瞑想に参加するよう呼びかけています。多くの人間が関与すればするほど、正の中立的な力も大きく、強くなります。我々は不安を呼び起こしたり、煽^{あお}ったりするつもりはありませんが、第三次世界大戦や、その他のひどい危険が目前に迫っているのです。そこで、いつか遠い将来、地球人全体が平和的な軌道で考えたり、行動したりするようになるまで、多くの点でこれからも大変な努力が長期に渡って必要になるでしょう。

より善いもの（またはより悪いもの）への転換は、常に個々の人間の決定と努力によって達成されるものです。愚かで非人間的な格言「後は野となれ山となれ」に従って生き、「生きよ、そして生きるのを助けよ」という格言に従わない者には、転生（生まれ変わり）が単なる哲学的な思弁ではなく、論理的に証明可能な事実であることを教えなければなりません。すべての人間は地球上で繰り返し転生し、そ

の都度、過去に形成した通りの世界を見出すことでしょう。

平和瞑想は、明瞭な意識を有する者なら誰でも参加できます（麻薬の服用、アルコールの摂取、意識を損なう重度の精神病がないこと）。非常に重要なのは、平和瞑想への参加は絶対的に自由意志で行うことです。つまり、たとえば子供に平和瞑想を強制的に行なわせてはなりません。ただし、要件を理解し、把握するだけの理解力が備わっていれば、子供でもすぐに参加できます。

平和瞑想は毎月第1週末と第3週末に、それぞれ20分間行われています。日本時間では、日曜日の2時30分と4時、月曜日の4時にそれぞれ行なわれています。瞑想の開始時刻は、正確に守る必要がありますが、どうしても正確な時刻を知ることができない場合には、開始時刻が遅れるよりも、やや早めに瞑想を開始するようにします。

瞑想は、まるまる20分間、瞑想文を誰にともなく繰り返し囁くか、声に出して唱え、雑念が生じないように努めることで行なわれます。つまり、他のこと、すなわち瞑想とは関係のない考えに耽^たってはならず、ひたすら「地上に、すべての被造物に平和あれ！」を意味する一文に集中するのです。自分が他の考えに耽^たっていることに気づいたら、とにかく再び瞑想の言葉に向かえばよいのです。平和瞑想が機能するためには、この言葉を正確なアクセントで正しく発音することが非常に重要です。この文は、リラ語で書かれており、次のように唱えます。

“Saalome gam naan ben uurda, gan njjber asaala hesporoona!”（二重母音は長く発音）

リラ語は、1万3500年前と28万9000年前に、古代のリラ・ベガ系子孫が一時期地球で暮らしていたとき話されていた言葉です。この言葉を一緒に発音する（同時に思考する！）ことによって、地球を取り囲んで、あらゆる人間のすべての思考パルスなどを記憶しているメモリーバンク（いわゆるアカーシャ・クロニック）において、パルスが放出されます。これらのパルスは個々の瞑想者の中にも無意識のパルスを放出する一方、その強度により負の力場に重なり、これらを次第に中性化するのです。

（出典：FIGUスイス ホームページ）

ビリー・マイヤーへのインタビュー — 霊の教えについて —

死んであの世を見たことがあると言う人がいます。そのようなことは本当にありますか。

そのような意味では、ありません。そこで言われている人間は実際には死んでおらず、臨床的に見て死んでいたにすぎないのです。つまり確認できるような心臓と脳の活動はもはや存在していなかったのです。しかしそれはすでに言ったように臨床的な死にすぎません。そこでは霊形態はまだ肉体を離れておらず、肉体の中に留まったままです。したがってあらゆる形態の生命機能が消滅したように見えたとしても、総意識もまた引き続き物理的な肉体の中に留まっています。さて、総意識と霊形態はなおも肉体に留まっており、それは場合によって数秒、数分または数時間続くこともあり、たとえば生存を目的とした急速凍結等、特殊な事情のもとでは数年ないし数十年続くことがあるので、意識も活動しています。しかしながらこれは死線状態で行われるにすぎず、したがって脳の活動ももはや確認できませんが、実際には活動しています。そのときにそれらの人々の思考や空想を映した幻想が現れますが、それらは地球人の総合的な集合体によっても刻印されています。そしてこの深い死線状態においてこれらの人々はしばしば意識を自分から離すことが可能になり、それによって突然自分自身の上に浮かんでいるかのように、自分を外から見たりすることができるのです。この場合、よく光や闇や愛する人間が重要な役割を果たします。たとえば死に臨む人間が発光体等によって闇の通路を通して光の中に導かれ、そこから再び戻ろうとしないという例がそれです。

あの世と、したがってまた死者とコンタクトを取ることとはできますか。

いいえ、それは原則として不可能です。それにもかかわらず別のことが言われたり、そうした現象があるとすれば、それは真実とは異なり、とんでもない錯覚か自己欺瞞、あるいは記憶のデータ水準の領域に関わる出来事であるか、それとも単なるいかさ

まかペテンにすぎません。記憶のデータ水準、いわゆるアカーシャ・クロニックに属する事象だとすれば、それは次のように説明されます。アカーシャ・クロニック、すなわち地球の超空間の記憶のデータバンクには個々の人間の一切の想念、話したこと、感情、その他の刺激、すべての感動やインパルス等が貯蔵されています。これらすべてのものは、思考的、意識的または技術的手段によって保管されているものと同じ周波数を作り出すことができれば、人間によって再び呼び出すことができます。つまりまだ生きている人間でも、すでに死んだ人間でも、特定の周波数を見つけることさえできればそれぞれの記憶のデータバンクから情報を引き出すことができるのです。それどころか、アカーシャ・クロニックに保管されたインパルスや情報等と、論理的手順で何らかの交信をすることもできます。さらにこのような交信はあの世の空間に保管された総意識情報とも可能です。しかし、これは極めて稀なケースと言わなければならない、死者と話すことができるというのとは全く異なります。

生まれ変わることでできる総意識体は、あの世の領域においてある条件下で生きている人間とコンタクトを取ることができます。が、これも極めて稀であり、霊媒を自称する「口寄せ」とは関係ありません。

死者と話ができると称する霊媒で見られる現象は、一方では記憶のデータバンクもしくはアカーシャ・クロニックとつながって情報を引き出すものです。しかし他方では、これは最も頻繁に見られる現象形態ですが、一般に霊媒と呼ばれる人間はトランス状態に入って、生存しているさまざまな地球人の無意識形態とつながって交信できます。この場合、これらの無意識形態は地球人の全無意識集合体の一部であり、これらは死後も生命が存続していることについて情報を与えることができます。なぜならば、これらの無意識形態それ自体がそうした事実や転生について知っているからです。このことからまた、これらの無意識形態はそれ自身に知られていることしか与えられないということがわかります。が、それは人間が目覚めている状態で知り得るよりも多い

ことがしばしばあります。これらの無意識形態も同様に記憶のデータバンクとつながっていますが、個人的な特徴が非常に強く、それぞれの記憶のデータバンクに記憶されているだけで当の人間には秘密になっている情報を与えることができるのです。

あの世とのコンタクトのテーマにはチャネリングや霊媒という概念も含まれています。これについてはどのように考えるべきですか。

霊媒とは超感覚的な領域と交信する能力のある人間を言います。しかしそうした真の霊媒は非常に稀で、決して推測されているほど多くありません。というのも地球上には自分たちが本当の霊媒であると主張する人間が数え切れないほどいるからです。しかし真相は、これらの主張の大部分は嘘、ペテン、詐欺か、あるいは病的な自己欺瞞か、精神分裂やさまざまな形の妄想観念にすぎないのです。高次の霊水準の信頼できる情報によると、地球上には真の霊媒は16人しかいませんが、彼らはその能力を公表せず、したがって宣伝もしなければ、それによって金銭的、その他の世俗的な利益を得ることもありません。したがって、公然と登場して降神術の集会、セミナーや出版物、講演やショー等で、いろいろな利益を得ている無数の霊媒はいずれも、本当はそんな能力を持っていないと言うことができます。チャネリングについても、最初に挙げた霊媒と同じことが言えます。ですから再度説明することは控えますが、一つだけ言っておくと、真の霊媒の場合は非常に多くの偽の霊媒やチャネラーと異なって宗教的な性格は全くありません。こうした偽の霊媒やチャネラーは、宗教・教派的な事柄や決まり文句、警告や恭順の要求や脅迫等をいやというほど撒き散らすのです。それにより彼らが宗教・教派的に従属していることがはっきりと示され、もはや見過ごすことができなくなります。

多くの人間は守り神、霊の先導者、神、その他高次の力、聖人またはイエス・キリスト等によって導かれ、保護されているというように信じています。そういうことは本当にありますか。

いいえ、絶対にありません。なぜならば人間は自分の思考、感情、感覚、行為等に対して常にいかなる場合においても、全く単独で責任を負うからです。ただ、あらゆる種類の宗教や教派は、神や聖人、守り神やイエス・キリストが人間の運命を左右し、したがってそれに対して責任も負う等と主張しています。しかしそのようなことは、宗教や教派の頭目たちが盛んに煽る宗教・教派的狂気以外の何物でもありません。それは人間を自分たちに引き寄せて縛り付け、徹底的に金を絞り取り、搾取できるようにするためです。しかし実際には宗教や教派が宣告するような創造主・神というものは存在しません。なぜならば、真に存在するのは創造のみだからです。それは宇宙意識として自らの内に全宇宙と万物を創り出しました。これにはあらゆる生命形態が含まれますが、人間もそれに属しています。そしてこの創造は人間には何も要求せず、また人間が考えたり行為したりする何らかの事柄に対して責任を負うことも決してありません。

要するに、人間はあらゆる点ですべてのことに對して自分で責任を負い、またこの責任とそのすべての帰結も常に自分自身で担い、十分に味わわなければならないのです。それは、人間が何を考え、どんな行為や行動をなすかには全く関係ありません。しかしこれはまた人間は高次の力から絶対に独立しており、そうしたものには決して従属していないことを意味しています。したがって高次の力が保護の働きをするということはありません。霊の先導者も、イエス・キリストも、神も、聖人も、守り神、その他の元型もありえません。それらはことごとく宗教や教派の作り物であり、人間を本当の真実からそらして、人間は自立してはおらず、まさにより高次の力に従属しているというように信じ込ませるために、発明され、作られたものです。これが行われたのは極めて早い時期であり、それは人間を奴隷として従属させ、決して反抗して立ち上がることなく、卑屈にも抑圧状態に身を委ねるようにさせるためでした。

神や、それどころか神々、聖人や守護神等を信じているすべての人間をどう思いますか。

私たちの真理の教えは、人々の宗教や教派あるいは何らかの信仰を破壊することを目指していません。だから私たちには寛容でなければならない、布教活動を行ってはならないという規則もあります。したがって私たちの側から宗教や教派の信者に近づき、私たちの教えに変えさせるということは決してありません。私たちのモットーは、人間は誰も自分の信仰や知識に応じて信奉するものにより幸福になるというものです。つまりある人が神なり守護神なりを信じている場合、私たちはこの人からその信仰を取り除こうとはしません。私たちは人が自ら私たちのもとにやって来て、私たちの教えや知識について尋ねる場合のみ、仲介します。私たちはこのような仕方でのみ情報を提供するのです。

たとえ布教しないとしても、宗教や教派に関する真実を広めることが私たちの使命であることには変わりありません。しかし、これは専ら関心のある人々に配布したり、販売したりしている著作物の中だけに行きません。これら関心のある人々もまた自由意志で私たちのもとにやって来たもので、布教によって折伏させられたわけではありません。この場合、もちろん彼らの質問に対しては、望まれたすべての有益な答えや説明を与えます。これらの答えや説明は言うまでもなく、人間は決して信じるべきではなく、認識して真理を見るべきだという、私たちの教えが意味するものへと導きます。

すべての関心ある人々に対して明言しなければならないのは、信じるということは人間を依存させ、さらには従属させて、しばしば狂信主義に導き、それによって思考の自由が制限されるだけでなく、抑圧されたり破壊されたりするということです。しかし人間は自由であろうとするならば、自分自身の思考の自由も持たなければなりません。そうすることにより人間はすべてのことを自分自身で決定することができます。このとき人間は、愛に溢れたと称しながら実は復讐心に燃えて罰を与える神のダモクレスの剣が、いつ自分の頭上に落ちて来るかわからないという不安を抱く必要はありません。人間は自由であって、あらゆる決定を自分自身の責任で下し、またすべて自分自身で行動できなければなりません。最初に神や守護霊やイエス・キリスト等に許しを求めたり、事の善悪を問う必要はありません。そ

のようにするのは、こうした空想上の人物が規範を定め、それに対して責任を負うと信じられているからです。

真実は、人間はいかなる場合も自分のすべての思考、感情、思案、願望、行動に対して、常に自分自身で責任を負わなければならないということです。その結果として、人間はまた常に自分自身で善または悪について、あるいは否定的なことや肯定的なことについて決定しなければなりません。そしてそうするためにも人間は絶対的な思考と決定の自由を必要としており、仮想の力が人間に対して規則を定めたり、何らかの形でその自由や決定に口出しすることはできないのです。しかしまたこのことから、人間が自分で決定を下すことができるためには、真理について知らなければならず、絶対に知識が必要だということが明らかになります。しかしこのような知識は宗教や教派によって圧殺されてしまいます。知識とは力を意味しますが、この力こそ宗教や教派が手に入れて利用し、それによって利益を得ようとするものなのです。知識から遠ざけられている人間は、信仰によって宗教や教派にはまり、犬のように卑屈になり、思考の自由と決定の自由、そしておよそすべての自由を失うのです。それによって彼らはまた他の人間や、それらの生活様式および考え方等に対する寛容も失います。彼らの信仰態度は歪んでいき、他の宗教の信者や単に異なる意見の持ち主から自分たちの信仰を批判的な見方をされると必ず激怒します。しかし人間が互いに愛と調和において共存して生きていきたいならば、人間同士の間で寛容こそ必要なのです。しかしそのために必要なのは決して信仰ではなく、創造の全能の前ではすべての人間は本来平等であるという真理と確信です。それは、どのような人間であろうと、いかなる人種、肌の色、国籍であろうと、キリスト教徒、イスラム教徒、ユダヤ教徒、ヒンズー教徒、仏教徒、儒教徒、その他社会からドロップアウトした何らかの教派信者であろうと、金持ちであろうと貧乏人であろうと全く関係ありません。

つづく

(出典：FIGUスイス ホームページ)

出版物のご案内

新刊!!

■ プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■ わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■ 宇宙の深遠より — 地球外知的生命プレアデスとのコンタクト(徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■ 日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■ 第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ 日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

7 号 価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

29 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■ 精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ 預言者エレミヤとエリヤの予告 新刊!!

価格 400 円 (税込 送料別 80 グラム)

■ エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ 『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ 男と女に対する言葉

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■ 男と女の違い 男と女の結びつき

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■ パートナーシップ

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■ 昨日、今日、明日の心配に関する考察

価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)

■ 生と死は互いに切り離しがたく結びついている

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■ FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

■ プレヤール人が地球人に望むこと

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

※その他の書籍につきましては、フィグ・ヤーパンのホームページ等をご覧ください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円 500 グラムまで 290 円

100 グラムまで 140 円 1000 グラムまで 340 円

150 グラムまで 180 円 2000 グラムまで 450 円

250 グラムまで 210 円 3000 グラムまで 590 円

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 20 号 (無料)

発行日 2004 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2004 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.